

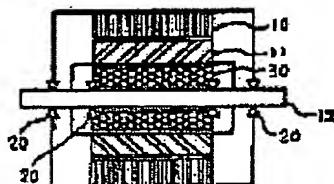
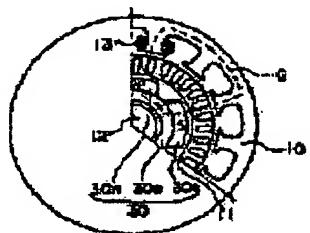
MOTOR

Patent number: JP4322150
Publication date: 1992-11-12
Inventor: SAKA MASAKI, TOKITA KANAME
Applicant: HONDA MOTOR CO LTD
Classification:
International: H02K17/16, H02K21/46
European: JP19910113738 19910419
Priority number(s): JP19910113738 19910419

[Report a data error here](#)

Abstract of JP4322150

PURPOSE: To enhance motor efficiency.
CONSTITUTION: An induction rotor 11 is secured coaxially to a rotary shaft 12 and a magnet rotor 30 is supported rotatably by the rotary shaft 12 through a bearing 20 on the inside of the induction rotor 11. The magnet rotor 30 comprises a plurality of permanent magnets 30s having main surface functioning as S pole and permanent magnets 30n having main surface functioning as N pole arranged alternately at the outer periphery of a rotor yoke 30a. When the field coil 13 of a stator 10 is excited to produce a rotary field, respective permanent magnets 30s, 30n are attracted to the rotary field and thereby the magnet rotor 30 rotates synchronously with the rotary field. Consequently, respective permanent magnets 30s, 30n of the magnet rotor 30 function to enhance the rotary field produced by the field coil 13.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-322150

(43)公開日 平成4年(1992)11月12日

(51)Int.Cl.⁶
H 02 K 17/16
21/46

識別記号 庁内整理番号
Z 7254-5H
6435-5H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4(全7頁)

(21)出願番号	特願平3-113738
(22)出願日	平成3年(1991)4月19日

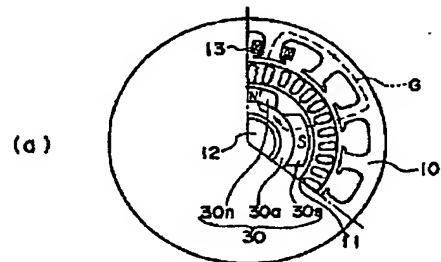
(71)出願人	000005326 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山二丁目1番1号
(72)発明者	坂 正樹 埼玉県和光市中央一丁目4番1号 株式会 社本田技術研究所内
(72)発明者	時田 要 埼玉県和光市中央一丁目4番1号 株式会 社本田技術研究所内
(74)代理人	弁理士 平木 道人 (外1名)

(54)【発明の名称】 モータ

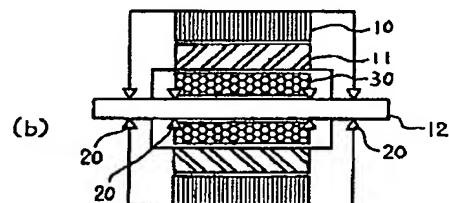
(57)【要約】

【目的】 モータの効率を向上させる。

【構成】 誘導ロータ11は回転軸12に同軸状に固定され、誘導ロータ11の内側には、マグネットロータ30が軸受20を介して回転軸12に回転自在に支持されている。マグネットロータ30は、主表面がS極として作用する永久磁石30sおよびN極として作用する永久磁石30nを、ロータヨーク30aの外周部に交互に複数配置して構成されている。ステータ10の界磁コイル13が励磁されて回転磁界が発生すると、各永久磁石30s、30nが回転磁界に引かれるので、マグネットロータ30は回転磁界に同期して回転する。この結果、マグネットロータ30の各永久磁石30s、30nは、界磁コイル13による回転磁界を強めるように作用する。



(a)



(b)

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 固定子に設けられた一次コイルによって回転磁界を発生させ、この回転磁界によって回転子に誘導された電流と前記回転磁界との相互作用により回転子が回転磁界に対して予定のすべりを持って回転するモータにおいて、主表面の極性が異なる永久磁石をロータヨークに交互に配置して構成され、前記回転磁界に同期して回転するマグネットロータを具備したことを特徴とするモータ。

【請求項2】 前記回転子は、マグネットロータと固定子との間に配置されたことを特徴とする請求項1記載のモータ。

【請求項3】 前記マグネットロータは、固定子と回転子との間に配置されたことを特徴とする請求項1記載のモータ。

【請求項4】 前記固定子は、マグネットロータと回転子との間に配置されたことを特徴とする請求項1記載のモータ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はモータに係り、特に、界磁束量を補い、界磁束の向きを最適化するためのマグネットロータを具備したモータに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 図7は従来のインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図であり、同図(a)は横断面図、同図(b)はその構造を模式的に表した縦断面図である。

【0003】 同図において、回転軸12には誘導ロータ(回転子)11が同軸状に固定され、回転軸12は、誘導ロータ11の周囲に配置されたステータ(固定子)10により、軸受20を介して回転自在に支持されている。固定子10の各磁極鉄心10aには界磁コイル13が巻回されている。

【0004】 このような構成において、界磁コイル13に一次電流を流して界磁束G(回転磁界)を発生させると、この回転磁界によって誘導ロータ11にうず電流が流れ、このうず電流と界磁コイル13による回転磁界との相互作用により、誘導ロータ11は回転磁界より少し遅い速度、すなわち予定のすべりを持って回転する。

図8は従来のアウターロータ型誘導電動機の構成を示した図であり、同図(a)は横断面図、同図(b)はその構造を模式的に表した縦断面図である。同図において、図7と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0005】 アウターロータ型誘導電動機は、誘導ロータ11がステータ10の外側に設けられる点を除いて、その構成、動作原理は前記インナーロータ型誘導電動機と同一なので、その説明は省略する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 上記した構成の誘導電動機は、構造が簡単であるために小型、軽量化が可能で

2

あり、また、ブラシレスのために高速回転が可能であるなどの特徴がある反面、効率が低いという問題があつた。

【0007】 また、図9に示したように、界磁束Gが誘導ロータ11の表面のみに発生するため、誘導ロータ11表面と界磁束Gとのなす角度が小さくなってしまう。このため、界磁束Gの半径方向成分F_Rが小さくなり、界磁束のトルク寄与分が小さくなってしまうという問題があつた。

【0008】 本発明の目的は、上記した従来技術の問題点を解決して、高効率のモータを提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】 上記した目的を達成するために、本発明では、ステータに設けられた一次コイルによって回転磁界を発生させ、この回転磁界により回転子を回転させるモータにおいて、さらに、主表面の極性が異なる永久磁石をロータヨークに交互に配置して構成され、前記回転磁界に同期して回転するマグネットロータを具備した点に特徴がある。

【0010】

【作用】 上記した構成によれば、マグネットロータの各永久磁石が回転磁界を強めるように作用すると共に、回転磁界の半径方向成分が大きくなるように作用するのでトルクが向上する。

【0011】

【実施例】 以下、図面を参照して本発明を詳細に説明する。

【0012】 なお、以下に参照する図1～図6では、(a)として横断面図を示し、(b)として、その構造を模式的に表した縦断面図を示している。

【0013】 図1は、本発明の一実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0014】 同図において、誘導ロータ11は回転軸12に同軸状に固定され、誘導ロータ11の内側には、マグネットロータ30が軸受20を介して回転軸12に回転自在に支持されている。

【0015】 マグネットロータ30は、主表面がS極として作用する永久磁石30sおよびN極として作用する永久磁石30nを、ロータヨーク30aの外周部に交互に複数配置して構成されている。

【0016】 このような構成において、ステータ10の界磁コイル13が励磁されて回転磁界が発生すると、各永久磁石30s、30nが回転磁界に引かれるので、マグネットロータ30は回転磁界に同期して回転する。この結果、マグネットロータ30の各永久磁石30s、30nは、界磁コイル13による回転磁界を強めるように作用する。

【0017】 しかも、図10に示したように、各永久磁石30s、30nにより界磁束Gの磁路が変化し、界磁

東Gと誘導ロータ11表面とのなす角度が90度に近付くので、界磁東Gの半径方向成分が大きくなつてトルクが向上する。

【0018】さらに、本実施例によれば、磁束帰還路となるマグネットロータ30のロータヨーク30aが回転磁界に同期して回るため、ヒステリシス損およびうず電流損が低くなる。

【0019】図2は、前記図1に関して説明した第1実施例と同様に、誘導ロータ11をステータ10およびマグネットロータ30で挟む構造を、アウターロータ型誘導電動機に適用した本発明の第2実施例の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0020】本実施例では、マグネットロータ30が軸受20を介して誘導ロータ11に回転自在に支持されている。マグネットロータ30は、ロータヨーク30aの内周部に複数の永久磁石30s、30nを交互に配置して構成されている。なお、本実施例の動作原理は前記第1実施例と同一なので、その説明は省略する。

【0021】本実施例によつても、マグネットロータ30の各永久磁石が回転磁界を強めるように作用し、また、界磁東Gの半径方向成分が大きくなるのでトルクが向上する。

【0022】さらに、磁束帰還路となるマグネットロータ30のロータヨーク30aが回転磁界に同期して回るため、ヒステリシス損およびうず電流損が低くなる。

【0023】図3は、本発明の第3実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0024】本実施例では、マグネットロータ30がステータ10および誘導ロータ11の間で、軸受20を介して回転軸12に回転自在に支持されている。マグネットロータ30は、複数の永久磁石30s、30nを、ロータヨーク30aの外周部に交互に配置して構成されている。

【0025】本実施例においても、各永久磁石30s、30nが界磁コイル13による回転磁界を強めるように作用すると共に、界磁東Gの半径方向成分が大きくなつてトルクが向上する。

【0026】さらに、本実施例によれば、誘導ロータ11を小型化できるようになるので慣性を小さくすることが可能になり、その用途が広がる。

【0027】図4は、前記図3に関して説明した第3実施例と同様に、マグネットロータ30を誘導ロータ11およびステータ10で挟む構造を、アウターロータ型誘導電動機に適用した本発明の第4実施例の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0028】本実施例では、マグネットロータ30が軸受20を介して、外側に配置された誘導ロータ11に回

転自在に支持されている。マグネットロータ30は、ロータヨーク30aの外周部に複数の永久磁石30s、30nを交互に配置して構成されている。

【0029】本実施例においても、各永久磁石30s、30nが界磁コイル13による回転磁界を強めるように作用すると共に、界磁東Gの半径方向成分が大きくなつてトルクが向上する。

【0030】図5は、本発明の第5実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0031】本実施例では、ステータ10がマグネットロータ30および誘導ロータ11の間に配置され、マグネットロータ30は軸受20を介して本体フレーム(図示せず)に回転自在に支持されている。マグネットロータ30は、ロータヨーク30aの内周部に複数のS極永久磁石30sおよびN極永久磁石30nを交互に配置して構成されている。

【0032】本実施例の動作原理および効果は前記と同一なので、その説明は省略する。

【0033】本実施例によれば、マグネットロータ30の各永久磁石が回転磁界を強めるように作用し、また、界磁東Gの半径方向成分が大きくなるのでトルクが向上する。さらに、磁束帰還路となるマグネットロータ30のロータヨーク30aが回転磁界に同期して回るため、ヒステリシス損およびうず電流損が低くなる。

【0034】図6は、前記図5に関して説明した第5実施例と同様に、ステータ10をマグネットロータ30および誘導ロータ11で挟む構造を、アウターロータ型誘導電動機に適用した本発明の第6実施例の構成を示した図であり、前記と同一の符号は同一または同等部分を表している。

【0035】本実施例では、マグネットロータ30が軸受20を介して回転軸12に回転自在に支持されている。マグネットロータ30は、ロータヨーク30aの外周部に複数のS極永久磁石30sおよびN極永久磁石30nを交互に配置して構成されている。なお、本実施例の動作原理は前記と同一なので、その説明は省略する。

【0036】本実施例によつても前記と同等の効果が達成される。

【0037】また、現在研究されている超電導コイルは、交番磁界を作れないために、直流モータや同期モーターにしか適用することができなかつたが、本発明によれば、マグネットロータ部に超電導コイルを適用することができる所以、超電導コイルを適用することにより、さらに高性能の誘導電動機を構成できるようになる。

【0038】なお、上記した実施例では、本発明を誘導電動機に適用して説明したが、本発明はこれのみに限定されるものではなく、同期機、ヒステリシスマータ、リラクタンスマータ、さらには各種の発電機にも適用することができる。

【0039】

【発明の効果】以上の説明から明らかのように、本発明によれば、次のような効果が達成される。

(1) マグネットロータの各永久磁石が回転磁界を強めるように作用すると共に、界磁束Gの半径方向成分が大きくなるように作用するのでトルクが向上する。

(2) マグネットロータは回転磁界に同期して回るため、マグネットロータのロータヨークが磁束帰還路として作用するようすれば、ヒステリシス損およびうず電流損が低くなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図2】 本発明の第2実施例であるアウターロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図3】 本発明の第3実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図4】 本発明の第4実施例であるアウターロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図5】 本発明の第5実施例であるインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図6】 本発明の第6実施例であるアウターロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図7】 従来のインナーロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

【図8】 従来のアウターロータ型誘導電動機の構成を示した図である。

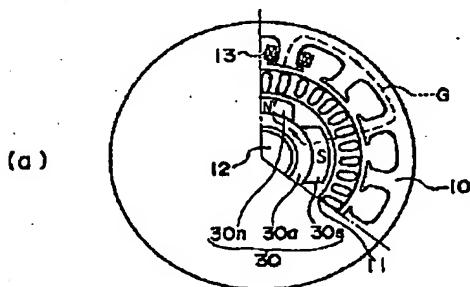
【図9】 従来技術の問題点を説明するための図である。

【図10】 本発明の効果を説明するための図である。

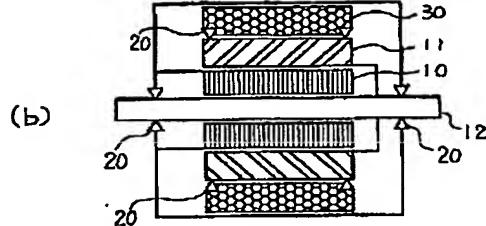
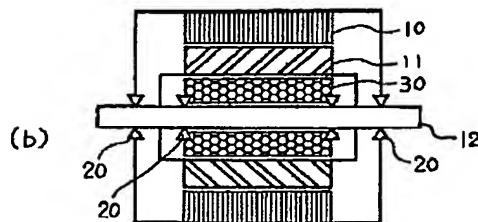
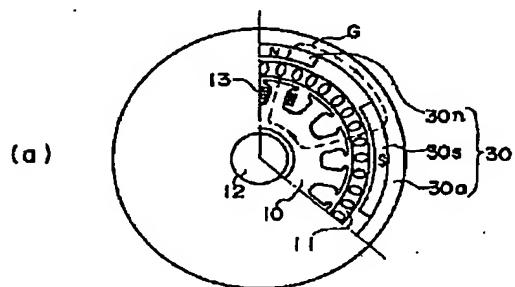
【符号の説明】

10…ステータ、11…誘導ロータ、12…回転軸、13…界磁コイル、20…軸受、30…マグネットロータ、30a…ロータヨーク、30s…永久磁石

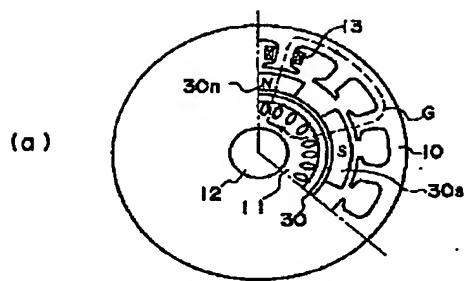
【図1】



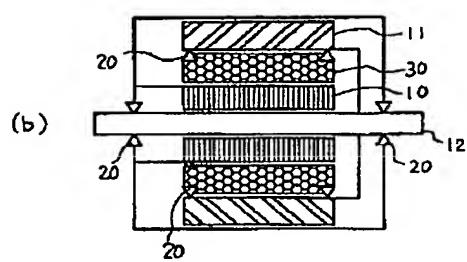
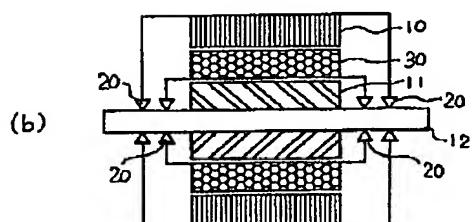
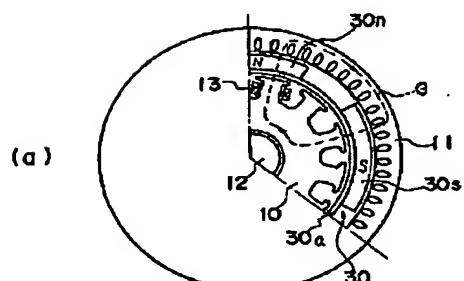
【図2】



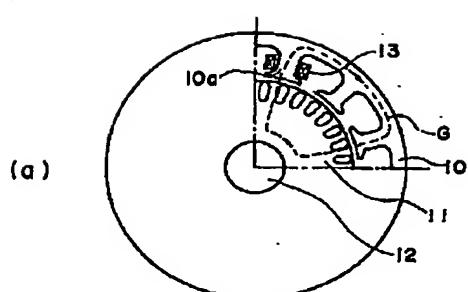
【図3】



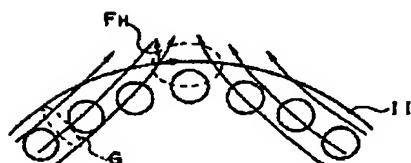
【図4】



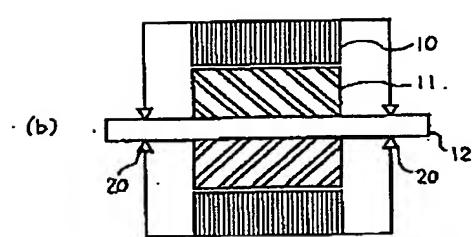
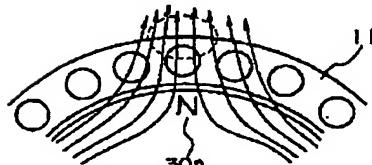
【図7】



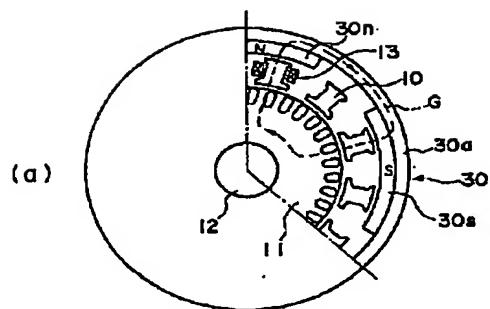
【図9】



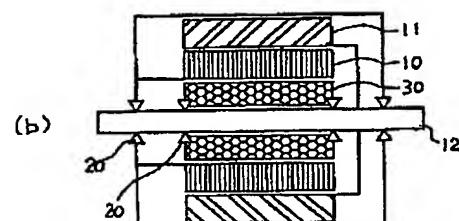
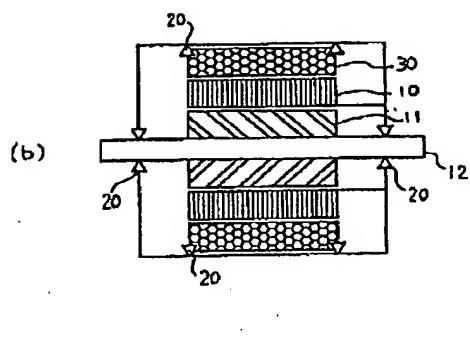
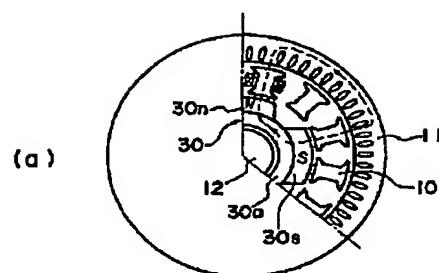
【図10】



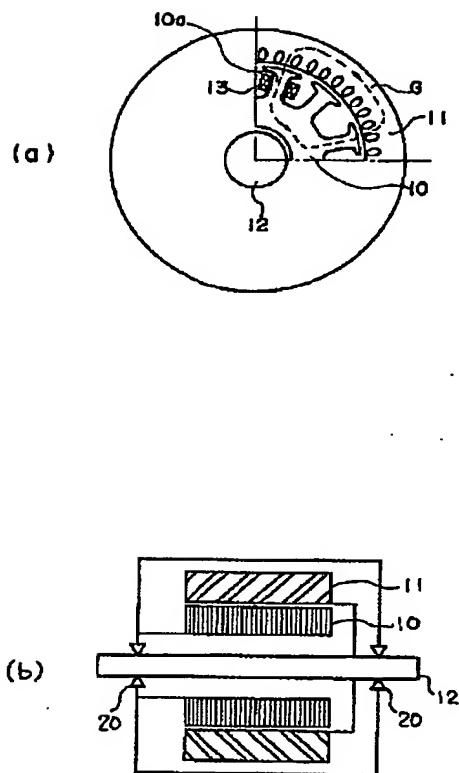
【図5】



【図6】



【図8】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.